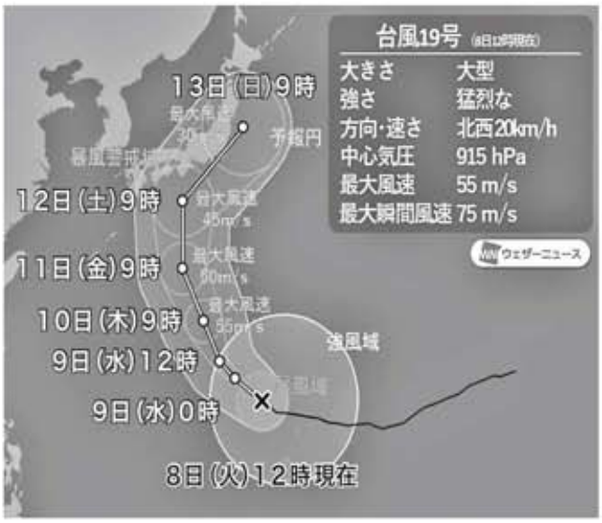
女性が亡くなった。3ヶ所はいづれも土砂災害警戒区域指定外だった。

災害危険性があると判断した地域の内、土砂災害危険区域に指定した割合は全国平均84％に対して、千葉はおよそ33％にとどまって最下位となっている。

埼玉では

11月10日（日）高橋部長と栗田で、台風19号で県内でも、数々の処で甚大な被害が発生したが、被災地状況の取材として、東松山市と川越市に行きました。

まず行ったのは、東松山市早俣地区で都幾川の堤防が決壊した、早俣橋のすぐ下の大工さんで、建設ユニオンに入ってるCさんに話を伺うことが出来ました。現在も避難所暮らしをしていて、「今日は天気も良いので片付けに来ています。」と家族5人位で色々な事をやっていました。「今回自宅から800メータ1位先の、神社が有った所の堤防が決壊したけど、この部分だけ改修工事がやってなく、前々から危ないと言われていて2階部分まで水が来てしまった。昭和22年にも同じような水害があり、早く自宅で暮らしたい。」と話してくれました。



屋根まで水が上がったとのこと（東松山市の民家）

高台でも床上1m30㎝

すぐ脇にあった光明寺というお寺では、高台にはなっているが、「床上1m30㎝位まで水が来て位牌がぷかぷか浮いてしまった。」と住職さんが話してくれました。又決壊部分の土手で散歩していた、若い親子連れに話を聞いた所「ショッピングモールや大型スーパーが水害で営業してないので、買い物を車で数十分も掛けて、他の処に行かなくてはならないので大変です。」と話してくれました。その日は東松山市消防団の方々が水路の土砂の撤去を行なっていました。

次に川越市の越辺川が決壊した所に行き、すぐ近くの工場で修復作業をしていた人に聞いたところ「工場の床から1・6m位まで水がきた。」との事であった。又近くの障害施設では、地盤が少し低い関係もあるが、2・5m位まで来た痕跡が残っていて、片付け作業をしている様であった。

次に特別養護老人ホームの「キングガーデン埼玉」へ行き、職員さんによると「当日は、1階の人を2階に移動する事などとても大変でした。又新聞等で報道されている、取り壊して建替えるなどまだ決定されてません。」との事でした。この地域では、入間川、都幾川、小畔川、越辺川、小野川等多くの川が合流しあう場所で、今までこの様な大きな被害が出なかったのが、不思議な事である。

都幾川の堤防修復場所

修復した堤防

県内でも東松山市、上尾市、鳩山町で1人づつ亡くなっている。家屋全壊113棟、半壊180棟、床上浸水2259棟と発表されている。その中で被害が大きかった東松山市と坂戸市では、事業所の被害が30億円超。中小企業の被害は36市町で335社になり、概算で約47億円以上になるのではと言われてて、ここに農林業係の被害は62億円。行政支援は絶対欠かせない。

11月25日現在の被害状況

死者	98人
行方不明	3人
車中死	22人
堤防決壊	71河川140ヶ所
土砂災害	884件
医療施設被害	222人
鉄道被害	254路線
住宅被害	82341棟
農林水産被害	2511億円

今世界的に色々な場所で水害が起きている。最初に取材したCさんは「この様な水害が起きるのは、地球温暖化現象が非常に影響しているんじゃないの？」と話していたが、この問題から逃げているのがアメリカである。現実を受け止め、より良い環境にして行く様にしていくのは現大統領では無理かな？

【黒目川　西川隆義】
【花の木　高橋洋】
【根岸　岩渕信雄】
【志木　広田紀夫】
【宗岡　栗田伴春】